

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200229		
法人名	社会福祉法人清光会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	高崎市箕郷町矢原52番地3 (電話)027-371-0804		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・行事について、バイキング形式の昼食・おやつや季節感のある行事食・外食などを行い食事を楽しんでいただいています。また、昼食やおやつなど利用者と職員一緒に調理する機会の充実に努めています。手作りおやつを提供しています。  
 ・グループホームの理念にある地域の交流については、同一法人のケアハウスとの交流行事(もちつき・おまんじゅう作り・運動会など)を開催して交流しています。また、共用型認知対応デイサービスを行い地域との交流を行ったり、傾聴ボランティアや介護相談員の訪問・家族も参加できる行事などを行い交流の場を多くもてるように努めています。今年度は、新たに同一法人のデイサービスの音楽療法や縫い物クラブなどに参加し、より多くの方と交流して楽しんでいただけるように行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の医療機関への受診は、入居前のかかりつけ医との関わりを重視し、身体変化に伴う医療機関の受診ができるよう支援している。特に認知症に伴う専門機関への受診には、持ち得る情報提供書類を作成し、受診時に引率者が持参して、必要な加療に繋げる支援が行われている。食事については、楽しく食事がすすむ支援を目指し、メニューには季節感を味わえるような食材を選び、主に昼食をメインとした行事食には、利用者の方に参加してもらい、職員とともに調理をしてすすめている。その他、事業所の周辺を活用した、日常的に戸外に出る習慣とした外出支援があり、季節季節に咲く花などを話題に会話を楽しみながら、地域住民生活の支援に努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回の全体朝礼にて、理事長が運営方針・理念を話しています。</li> <li>職員会議・主任者会議で確認しています。</li> <li>玄関とスタッフルームに運営方針を掲示します。</li> </ul>	<p>理念は、職員会議及び主任会議での確認が行なわれている。理念をもとに、事業目標・事業計画を作成し、理念の実践につなげている。事業所職員が寄り添うことで、利用者がその人らしく暮らす環境、馴染み関係者との交流支援に繋ぐ努力がある。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>隔月1回の運営推進会議には区長・長寿会・民生委員に出席していただいています。</li> <li>法人内のケアハウスやデイサービスとの交流行事の開催しています。</li> <li>納涼祭で地域住民と交流しています。</li> <li>共用デイを実施して地域と交流しています。</li> </ul>	<p>隣接するケアハウスやデイサービスとの音楽療法やおまんじゅづくりなどの交流行事、法人の児童館の児童の見学受け入れなどの他、毎月介護相談員や傾聴ボランティアを受け入れている。地域との交流を図るため、毎年の重点目標にして取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学者などの相談を受けています。</li> <li>福祉学校の実習を受け入れています。</li> <li>相談協力会議や施設見学、相談などを行っています。</li> <li>児童館利用者の施設見学の実施していません。</li> </ul>	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議では隔月1回、活動報告を行い、前回の会議より充実した報告が出来るように努力しています。</li> <li>会議後に、利用者と一緒におやつを食べていただいたり、避難訓練に参加していただいたりして交流を図っています。</li> </ul>	<p>会議は、地域の方に事業所を知ってもらうことを主体に、運営状況・活動状況等を報告している。報告の内容もいつも同じ内容でなく、向上した様子が感じてもらえるよう工夫している。地域の情報や利用者の見守り依頼など、その時の課題も話し合われている。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議に市の職員の出席を依頼し、意見交換を行っています。また、日頃より相談・連絡を行っています。</li> <li>市主催の研修会などの情報を頂き参加しています。</li> </ul>	<p>法人内には安心センター、包括支援センターもあり情報交換等がある。市の支所には、事業所内の報告及び機会あるごとに連絡を取る関係がある。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束推進員養成研修に参加しています。</li> <li>法人による、マナー研修に参加しています。</li> <li>言葉による拘束を含め身体拘束をしないケアの実践につとめています。</li> <li>玄関は施錠せず、見守りを重視。</li> <li>外出活動を増やすなど職員が対応しています。</li> </ul>	<p>利用者には役割を持ってもらうなど、自立への取り組みをすることで、身体拘束をしないケア実現に努力している。現状は、特に言葉による拘束に注意している。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は、互い注意して業務しています。</li> <li>内部研修や日々の申し送りにて、言葉遣いなど確認しています。</li> <li>人権擁護推進員養成研修に参加していません。</li> </ul>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員が制度を理解し、利用者2名が活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は、施設長・事務長・管理者が出席し、家族に説明を行い納得していただいています。 ・利用料などサービス内容変更時には説明を行い、同意の署名をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情窓口を設け苦情処理。改善に努めています。 ・会議や申し送りなどで職員で話し合い反映しています。 ・家族面会時や電話連絡時など状態報告などを行い意見や要望など聞くようにしています。	面会時等には、家族に利用者の状況を報告している。家族から、利用料や市の支援制度の内容などの話題が多くあがり、説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の職員会議を実施し、管理者と職員と意見交換を行っている。また、その意見を主任者会議などで報告しています。 ・随時、意見交換を行い業務などに反映しています。	職員会議で、行事内容やケース内容が話し合われている。職員は年2回、職場環境や異動希望等を申告する意識調査表を提出し、処遇の改善や資質向上に繋げる機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課を実施しています。 ・公務員給与に準じています。 ・処遇改善手当を支給しています。 ・各自が向上できるよう、職員意識調査を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員会議やミーティングでケース検討などを行い職員全体の向上に努めています。 ・内部研修や施設見学・外部研修など実施。また、研修報告など実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内の他部署との意見交換や相談を行っています。 ・他施設の見学も実施しています。 ・定期法人職員研修を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者の声に耳を傾け、利用者にとって不安のないように努めています。 ・家族と一緒に施設見学・デイのお試し利用・行事への参加など行い施設を理解いただき、安心していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接を実施し、現在困っていることや不安なことを聞きながら、関係作りを努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・施設見学時や新規入居の相談時にグループホームの説明だけでなく他のサービスも同時に説明を行いサービス利用の参考になるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は利用者と一緒に過ごす時間を多く持ち一緒に献立を考えたり、料理や掃除・工作・散歩やドライブなど行事に参加する事により、関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会や外出など協力をお願いしています。 ・面会時には情報を共有出来るように状態報告を行っています。 ・家族も参加出来る行事(バスハイク・花見・納涼祭など)の参加を呼びかけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会・外出・外泊は、特に制限しないようにしています。 ・家族との交流をはかれるような行事などを企画して参加いただいています。 ・同一法人内の施設に出掛けて交流をはかっています。	利用者の入居時の情報収集(アセスメント)時に関係者等の把握を行い、馴染みの関係者支援に活かしている。知り合いが入居したことで、認知度が改善された事例もあり、あらゆる可能性を意識した馴染みの関係継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・トラブルや孤立することが無いよう職員が間に入って調整したり、席替えなどを実施し、未然に防ぐように努めています。 ・レクリエーションや行事などを通して利用者同士が関わりを持てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談や利用時の情報提供を行い、継続的な支援を行っています。</li> <li>・利用終了後も、本人への面会・家族の相談に応じています。</li> </ul>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、介護相談員・傾聴ボランティアの来園により悩みなど相談にのっていただき、内容を把握しています。</li> <li>・職員がかかわる時間を多く持ち、希望や悩みなどの把握に努めています。</li> <li>・帰宅願望など不穏な状態の方には、ドライブなどにかけて気分転換を行っています。</li> </ul>	日常支援のなかで、介護拒否や言語表出できない利用者に対して、職員がそれぞれの言葉かけの工夫を凝らした対応をしている。重なる拒否には、パターンを変えて取り組んでいる。そうした対応については、月1回のケース会議で話し合い、検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居前の面接調査・これまでのサービス利用者などに状態報告などをいただき把握しています。</li> <li>・入居後も随時、家族や本人などから情報収集を行っています。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議や申し送り・ケース記録などで状況を把握し職員間で共有しています。</li> </ul>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議でこれまでの情報をもとに毎月モニタリングし介護計画の見直しなどを行っています。</li> <li>・家族の来園時や電話連絡などで状態報告を行っています。</li> </ul>	ケース記録等、各種記録をもとにケース会議等で話し合わせ、モニタリングから、介護計画作成のプロセスとしている。家族の意見は、直接払いのため支払いを兼ねた最低月1回の面会時や、事業所からの毎月の定期的な電話により状況説明を行いながら、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のケース記録・日誌・排泄チェック表などで共有しています。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その都度、柔軟に対応しています。その時に対応出来ない事は家族に相談し協力していただいたり、その後の行事や対応に反映させています。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望者に対して、地域の理美容業者に訪問していただき、希望者がカット・髪染めを実施しています。</li> <li>介護相談員・傾聴ボランティアの月1回訪問していただいています。</li> <li>職員と一緒に買い物やドライブの実施しています。</li> <li>ケアハウスやデイサービスとの交流行事の実施います。</li> <li>演芸慰問などの依頼し、実施しています。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医には、家族または職員から直接状態報告を行い適切な診断・処方されるように援助しています。</li> <li>家族が対応出来ない場合は、職員が通院介助を行うなど支援しています。</li> </ul>	入居時に聞き取り、意向に添う支援に繋がっている。現在、約半数の方が協力医を受診している。対応は、家族に依頼している。職員は、必要なときに必要な医療受診ができるよう、専門医の把握をし、情報提供書類など持参できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>同一法人内の看護職に相談・緊急時の協力を要請し、対応しています。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時、介護サマリーなどでこちらでの情報を提供しています。入院後においても、病院や家族と連絡を取りながら退院時の相談を行っています。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の重度化した時に、家族と相談しながら利用、家族の希望により、特別養護老人ホームや医療機関などへの移動を支援しています。</li> <li>入所時や見学时など重度化した時の選択肢についても説明をしています。</li> </ul>	事業所には看護職の配置がなく、医療ケアの提供ができないことから、重度化や看取り等については、その段階に至った場合に、法人内の施設や医療機関への入所等を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部研修にて確認しています。</li> <li>事故後に検討会議を実施しています。</li> <li>事故報告書様式に沿って、事例等の検討会議を実施しています。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回、法人全体で箕郷分署立ち会いにて避難訓練を実施。年1回、消火訓練を実施しています。</li> <li>独自に避難訓練を行っています。</li> <li>地域住民・家族参加で避難訓練を実施しています。</li> </ul>	消防署立ち会いの年2回の避難訓練の他、事業所としても年2回避難訓練を実施している。訓練には区長・民生委員など運営推進会議メンバーの参加もあり、見守り等の協力を依頼して実践している。備蓄は、法人で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護に努めています。</li> <li>・契約時、個人情報の取り扱いについても同意を得ています。</li> <li>・接遇研修を実施や申し送りにて、定期および随時確認を行っています。</li> </ul>	月1回のケース会議や申し送りで、入浴や排泄時の誘導支援(声かけ)への配慮を考えての対応を話し合い行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類販売会・バイキング形式のおやつ・昼食など選択出来るような行事を実施しています。</li> <li>・日々、利用者と一緒に献立を考えています。</li> <li>・職員と一緒に買い物におやつを選んで頂いています。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の会話の中からおやつ・献立・レクリエーションなどの希望を聞き当日の献立やおやつの変更を行ったり、散歩やドライブ・庭でのおやつなど、柔軟に対応しています。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者に対して、町内の理美容業者によるカット・髪染めを実施しています。その他の方は、家族に対応していただいています。</li> <li>・業者をお願いして衣類販売も実施しています。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイキング形式・外食・行事食など楽しめるような行事を行っています。</li> <li>・下膳や簡単な食事の準備のお手伝いなど協力していただいています。</li> <li>・おまんじゅう作り・ホットケーキ作りなどのおやつ作りや焼きそばや豚汁作りなど職員と一緒に作ったりしています。</li> </ul>	季節感のある食事の提供支援を心がけている。行事食は、主に昼食時が多く、利用者も参加してもらい、自ら作った満足感も含めて食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人に合った食事形態や食器など工夫して行っています。</li> <li>・現在は、提供する方はいないが、きざみ食やミキサー食も提供したこともあります。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後の口腔ケアの声掛け・介助の実施しています。</li> <li>・週1回の義歯消毒を実施しています。</li> <li>・状態に応じ、家族に相談をして歯科通院・協力医訪問歯科の往診をお実施しています。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別での声掛け・トイレ誘導・トイレ介助を行いトイレでの排泄・おむつ交換を行っています。</li> <li>・布パンツ・紙パンツ・尿取りパット使用・夜間ポータブルトイレ使用などその人に合わせた排泄支援を実施しています。</li> <li>・排泄チェックを行い排泄パターンの把握しています。</li> </ul>	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、トイレ誘導を行なっている。紙おむつの使用・ポータブルトイレの利用など、状況に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の工夫・マッサージ・内服の調整などを行い排便コントロールを行っています。</li> <li>・便秘気味の方は排便チェックを実施しています。</li> <li>・おやつに、ヤクルト・ヨーグルト・牛乳などを購入し摂取しています。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面などで、時間や曜日などは決まっているが、希望者には、入浴出来るように支援しています。</li> <li>・個別入浴にてゆっくりと楽しめるように実施しています。</li> </ul>	季節湯や入浴剤を使用して、個浴支援を行っている。介護の拒否がある利用者の方にも何とか支援に繋げ、気持ちよとの発言にいたるよう努力している。家族の方による日帰り温泉利用の支援もあり、気分転換の効果に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室の室温・寝具や衣類の調整、医師との相談などを行い実施しています。</li> <li>・夜間帯での不安の訴えには、会話することにより不安を軽減をして休んでいただいています。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通院時、家族からの報告や病院からの薬説明書などからの情報を職員で共有しています。</li> <li>・通院に家族に普段の様子を報告したり、直接に医師に相談をして症状に応じて内服の変更する場合があります。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事・レクリエーションを実施しています。</li> <li>・個別で工作や園芸活動・習字などを実施しています。</li> <li>・各々の生活歴を重視し、掃除・洗濯物たたみ・調理など出来る部分を職員とともにしています。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見・公園などへのドライブなど実施しています。家族に声をかけて、一緒に参加できる行事も企画し参加いただいています。</li> <li>・普段の心身状況やその日の体調に合わせて、個別で散歩・ドライブ・買い物・庭での活動なども実施します。</li> </ul>	天気がよければ、日常的に庭先に出て視界に入る景観を題材に、コミュニケーションを深める支援に繋げている。玄関は開放にあり、尋ねてくれる関係者との交流がある。今後は、家族同伴での花見の計画も検討にある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者一人ひとりの状況に応じて支援しています。自己管理出来る方に対しては、家族の協力のもと、小遣い程度を本人が所持し、必要な時に使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・職員が間に入り電話をかけお話出来るように援助しています。 ・電話の後、職員が家族と変わり内容の確認を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールや玄関には、植物・壁面や置物を季節ごとに替えて季節感を演出しています。 ・家族が切り花や鉢植えホールに飾っており、利用者に楽しんでもらっています。	居間兼食堂はデイサービスとの共用空間にあるが、ホールの天井は高く、中央に職員のスペースと厨房があり、利用者、職員双方に見通しよい空間となっている。玄関には、この季節のひな壇が飾られている、利用者は個々に鑑賞に行き来して、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにソファを置いたり、ベランダに椅子やベンチを置きくつろぎの場所として使用しています。 ・ベランダや花壇で花を育て面倒をみていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、使い慣れたベットやタンス・テレビ・仏壇などの家具などを持参していただき、安心して生活できるように支援しています。 ・冬場は、居室に加湿用タオルを設置して風邪予防に努めています。	居室は、家族の意見も採り入れながら、職員と一緒に配置が行なわれている。利用者の状態等を考えながら、家具の位置や大きさ、数量を調整して、安全でくつろげる居室に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホールに大きめの日めくりカレンダー・ホワイトボードに本日の献立を掲示。トイレや風呂などわかりやすく看板を設置しています。 ・ホールなど季節が解るような壁面やかざりなどで飾っています。 ・花瓶に季節の花を飾っています。		